情報基礎２　課題１

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　総合政策学部1年　渡邉哲彦（71409603）

1. HTMLの基本構造

HTMLはHyperText Markup Languageの略。Webページを記述するためのマークアップ言語。文書の論理構造や表示の仕方などを記述することができる。W3C（Webで利用される技術の標準化をすすめる国際的な非営利団体。Web技術に関わりの深い企業、大学・研究所、個人などで構成される。）によって標準化が行われており、大半のWebブラウザは標準でHTML文書の解釈・表示が行える。

HTMLでは、文書の一部を“<”と“>”で挟まれた「タグ」と呼ばれる特別な文字列で囲うことにより、文章の構造や修飾についての情報を文書に埋め込んで記述することができる。文章の中で表題や段落の区切りを指定したり、箇条書きの項目を列挙したり、文書の一部として画像や音声、動画を埋め込んだり、他の文書へのハイパーリンクを設定したりすることができる。

1. CSSの基本構造

CSSはCascading Style Sheetの略。Webページのレイアウトを定義する規格。これ

まで、WebページのレイアウトはHTMLを用いて記述され、HTMLにはレイアウトに関する仕様が大量に取り込まれたが、これは、文書の論理構造を記述するという本来のHTMLの目的に反するため、文書の視覚的構造を規定する枠組みとしてCSSが新たに策定された。CSSを使うと、フォントや文字の大きさ、文字飾り、行間などの見栄えに関する情報を文書本体(及び文書の論理構造を記述したHTMLから切り離すことができ、ユーザが複数のレイアウトから適当なものを選択することができるようになる。W3Cで標準化されている。

1. HTMLとCSSの役割分担

HTMLは元々主に文章の論理構造を記述する言語だったが、Webの普及が進むにつれて文書の見栄えに関する仕様が追加されていった。その後、見栄えを記述する専用の言語としてCSS(Cascading Style Sheet)が考案され、現在ではなるべく構造の記述をHTMLに、見栄えの記述をCSSに分離すべきとされている。

参照元：IT用語辞典e-Words（<http://e-words.jp/>）　2014/09/30閲覧